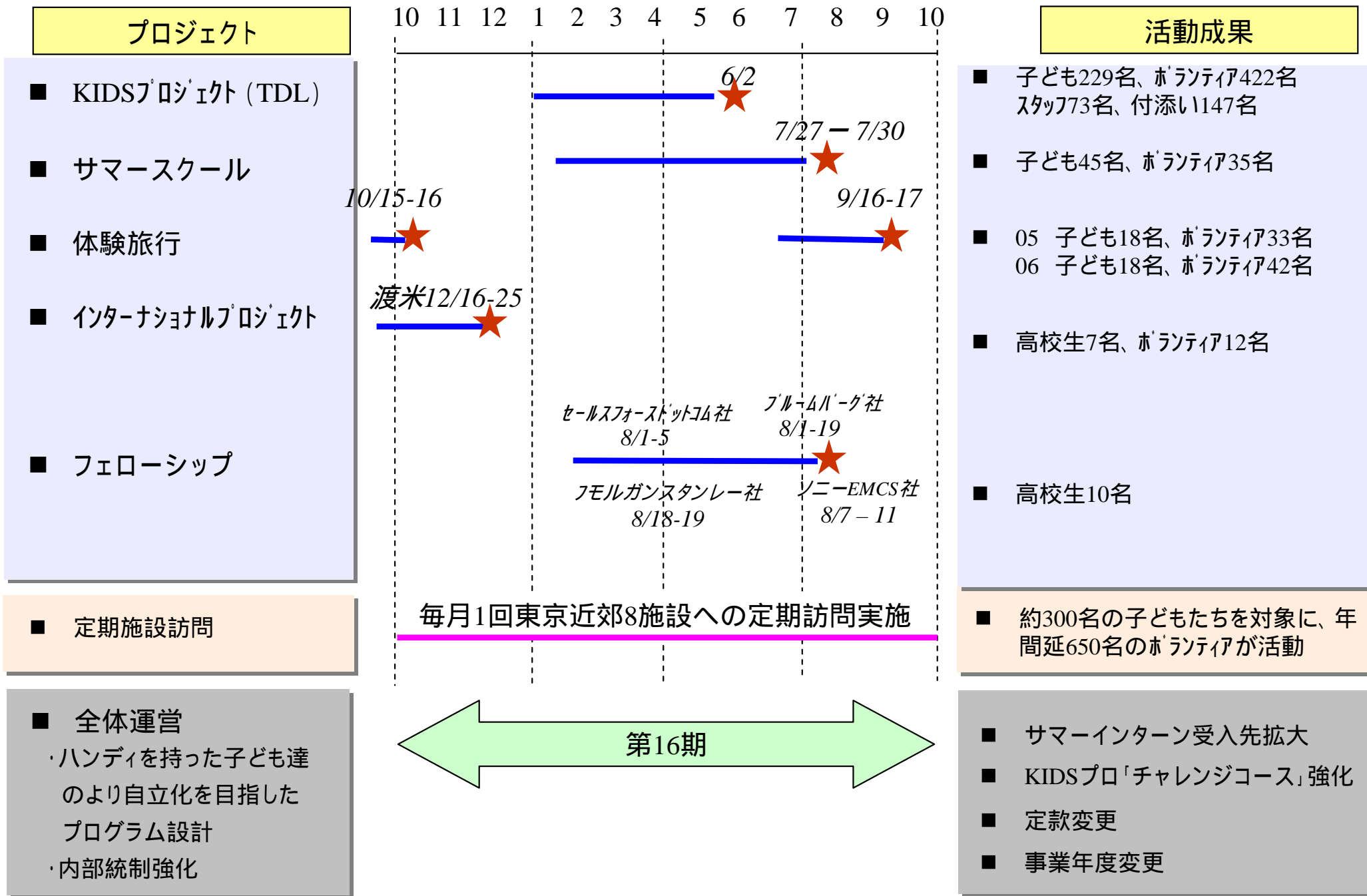


第16期(2006年度) 事業報告

第16期(2006年度)活動オーバービュー



KIDSプロジェクト2006活動報告

■ KIDSプロジェクト2006

- ディレクター：(実行委員会)
- 開催日時： 2005年6月2日(金)
- 参加者数： 子ども205名、ボランティア364名、付添い子ども28名、付き添い大人104名
スタッフ76名。総勢777名
- スローガン： 「楽しい輪・みんなの輪・笑顔の輪(Everyday Shiny Smiles!)
- 狙い： 障害をもった子ども達とボランティアの継続的交流を目指すきっかけ作り。
- 主な活動内容
 - 参加者募集(子ども、ボランティア、スタッフ)とデータベース管理
 - 当日運営計画の立案。マニュアル化とトレーニング(ボランティア説明会)
 - 子どもとボランティアの適正なマッチング
 - 子どものアクセス(バス)確保
 - オリエンタルランドとの折衝

活動の効果

子どもの自立型参加の浸透と増加
 企業の、プロジェクト利用の多様化(新入社員研修に使う、など)
 イラスト・シール(ファンドレイズ用)など、新しい試みの実践

KIDSサマースクール2006活動報告

■ KIDSサマースクール2006

- ディレクター：相澤 重義
- 開催日： 2006年7月27日～7月30日 プレキャンプ：2006年6月10日～11日
- 事前交流会：2006年6月17日 事後交流会：2006年8月26日
- 開催場所： 国立那須甲子青少年自然の家
- 参加者数： 子ども：45名、ボランティア：35名 合計：80名
- 狙い： 子どもたちとボランティアが自然の中で共同生活を行うことで、子どもたちの社会性・自立性・協調性を育成する。
 -
- 主な活動内容
 - 参加募集枠の多様化(自立を目指す身体的ハンディを持つ子ども達を昨年同様募集)
 - 大自然の中での共同生活(飯盒炊飯、ウォークラリー、自然観察、キャンプファイヤー等)
 - 事前・事後交流会、高校生スタッフ(大人スタッフ同等に扱う)研修会の開催

活動の効果

障害児と健常児に何の壁もないことを参加者全員が理解できた
 子どもたちの社会性・自主性・協調性の育成
 参加スタッフ間の信頼関係の強化

KIDS-GEインターナショナルプロジェクト2005活動報告

■ KIDS-GEインターナショナルプロジェクト2005(第16期活動扱い)

- ディレクター: 西田 有一
- 開催日時: 2005年9月3日～2006年2月25日(うち渡米期間2005年12月16日～25日)
- 主催: KIDS-GE Japan
- 場所: Give Kids The World (アメリカ・フロリダ州オーランド)
- 参加者数: 高校生7名、スタッフ12名(うち渡米スタッフ5名)
- 狙い: 高校生が直接心のこもった奉仕活動をすることで、難病の子どもたちへ生きる力を注ぎ込み、同時に自分たちは生きることの大切さ、やりがい、生きがいを認識させる。
- 主な活動内容
 - 3ヶ月の準備期間中、毎週末の英会話レッスン及び文化交流発表の練習
 - GE elfunのボランティアの方々との交流イベント
 - Give Kids the Worldで次のことを実施した。
 - 朝食のサーブその他、GKTWの子どもたちへの奉仕活動(午前中)
 - 踊り/演劇/折り紙のパフォーマンス、日本文化紹介(夜)
 - GEの現地社員の方々との交流 **活動の目標**

奉仕活動を通して、思いやりの心の習得

日本文化の再認識、アメリカ文化の体験

英語力の向上と集団の中でチームワークを作るための精神的な成長

KIDS-GEインターナショナルプロジェクト2006活動報告(進行中)



■ KIDS・GEインターナショナルプロジェクト2006(第17期活動扱い)

- ディレクター: 河口 恵津子
- 開催日時: 2006年9月2日～2007年2月24日(うち渡米期間2006年12月22日～31日)
- 主催: KIDS-GE Japan
- 場所: Give Kids The World (アメリカ・フロリダ州オーランド)
- 参加者数: 高校生6名、スタッフ12名(うち渡米スタッフ6名)
- 狙い: 高校生が直接心のこもった奉仕活動をすることで、難病の子どもたちへ生きる力を注ぎ込み、同時に自分たちは生きることの大切さ、やりがい、生きがいを認識させる。
- 主な活動内容と予定
 - 3ヶ月の準備期間中、毎週末の英会話レッスン及び文化交流発表の練習
 - GE ボランティアの方々との交流イベント
 - Give Kids the Worldで次のことを実施する予定。
 - 朝食のサーブその他、GKTWの子どもたちへの奉仕活動(午前中)
 - 踊り/歌/折り紙のパフォーマンス、日本文化紹介等(夜)
 - GEの現地社員の方々との交流 **活動の目標**

奉仕活動を通して、思いやりの心の習得
日本文化の再認識、アメリカ文化の体験

英語力の向上と集団の中でチームワークを作るための精神的な成長

KIDSフェローシップ2006活動報告

■ KIDSフェローシップ2005

- ディレクター: 丹野 幸敏
- 主催: KIDS / ブルームバーグLP社、セールスフォースドットコム社、モルガンスタンレー、ソニーグループ
- 活動日時、場所、参加者数:

8/1 ~ 8/5 (平日)	セールスフォースドットコム社 (IT、恵比寿)	- 第2回	女子高校生3名
8/1 ~ 8/19 (平日)	ブルームバーグLP社 (金融情報、丸の内)	- 第3回	男女高校生4名
8/18 ~ 8/19 (平日)	モルガンスタンレー (金融関係、恵比寿)	- 初回	女子高校生2名
8/22 ~ 8/26 (平日)	ソニーグループ (製造業、木更津)	- 初回	男女高校生4名
- スタッフ数: KIDSスタッフ 10名
- 狙い: 児童養護施設等に在住の高校生 (一部活動に中学生も参加) を対象に、就業体験の機会、および将来の自立、仕事やキャリア形成について考えるきっかけを提供する。
- 主な活動内容
 - オフィス内での一般事務, サポート業務, 営業外回の同行, 電気製品の信頼性評価などを体験
 - インターンシッププログラムで学んだ研修成果や働くことの意義についてプレゼンテーション
 - 社会に巣立つ準備としてマナーの基礎の習得

活動の効果

昨年のブルームバーグ, セールスフォースドットコムに加え、モルガンスタンレー, ソニーグループに新たに協力頂き、子どもたちの体験の場が広がった。

高校生達は1週間または3週間を無遅刻無欠勤で無事インターンシッププログラムを修了。

学校生活やアルバイトでは経験できない、職務責任の重さや厳しさを体験し、働くことの意味を考えることが出来た。

当初は大変苦勞をしたが、多くの職場の人々とコミュニケーションが出来るようになった。

素晴らしい人々との出会いを通じて、各自の将来について真剣に考える機会を得たこと。

体験旅行プロジェクト2005活動報告(第16期活動として)

■ 体験旅行プロジェクト2005

- ディレクター: 丸川 雄
- 開催日時: 2005年10月15日～16日(一泊二日) 事前交流会:2005年8月28日
- 開催場所: 静岡県朝霧高原 宿泊先: 県立野外活動センター
- 参加者数: 子ども18名、ボランティア31名
- 狙い: 子ども達とボランティアが自然の中で共同生活を行うことで、子ども達の社会性・自立性・協調性を養う。
- 主な活動内容
 - 知的・身体的な障害を持った子ども(小学生～高校生)が、親元を離れ、ボランティアスタッフと一緒に1泊2日の旅行をする。
 - 自然の中でのウォーラー、ネイチャークラフト、牧場での酪農体験を実施。

活動の効果

親元から離れた旅行体験を通して、自立性を伸ばせた
酪農体験やさまざまな体験を通して、社会性を養えた
ボランティア初心者も「やってみればわかる」という精神を体得できた。

体験旅行プロジェクト2006活動報告

■ 体験旅行プロジェクト2006

- ディレクター： 陣内 一喜
- 開催日時： 2006年9月23日～24日(一泊二日) 事前交流会：2006年9月3日
事前交流会：2006年9月3日 事後交流会：2006年11月25日
- 開催場所： 静岡県朝霧高原 宿泊先：県立野外活動センター
- 参加者数： 子ども18名、チャレンジボランティア2名、ボランティア40名
- 狙い： 子ども達とボランティアが自然の中で共同生活を行うことで、子ども達の社会性・自立性・協調性を養う。
- 主な活動内容
 - 知的・身体的な障害を持った子ども(小学生～高校生)が、親元を離れ、ボランティアスタッフと一緒に1泊2日の旅行をする。
 - 自然の中でのウォーラー、ネイチャークラフト、牧場での酪農体験を実施。

活動の効果

親元から離れた旅行体験を通して、自立性を伸ばせた
酪農体験やさまざまな体験を通して、社会性を養えた
ボランティア初心者も「やってみればわかる」という精神を体得できた。

2006年度の定期施設訪問の活動報告

■ 定期施設訪問

- ディレクター： 富岡 和広
- 日時： 通年
- 参加者数： 対象となる子ども約300名、延べ参加ボランティア(1月～9月)487名（年間約650名相当）
- 狙い： 子どもたちとの毎月の交流を通して、子どもたちに対する持続的、継続的社会教育を実現する
- 主な試み
 - 訪問先は、現在8施設。6施設には毎月1日ずつ定期的に訪問を実施。
 - 昨年度に不定期化した「今井城学園」は3月から、「宮代学園」は7月から毎月の訪問になり活性化が実現。
 - 「くらき」「茨城育成園」は依然として不定期活動である。
- 課題
 - 訪問先施設により活動の活発さや参加ボランティア人数の格差が広がってきている。
 - 定期訪問リーダーの継続的な育成が必要である。

活動の効果

子どもたちとボランティアとの継続的な活動の定着
 各種プロジェクトと定期訪問との連携強化
 企業とのコラボレーション活性化

2006年度全体運営の活動報告

■ 全体運営

- 理事： 丹野幸敏、山本美樹夫、桜井祥一、富岡和広、森本健、徳久正清、
関口 剛、桜井敬貴、深田保志子
- 運営委員会： 毎月1回開催(理事、各ディレクター、オフィス担当)
- 活動方針： 「身近さ」
- 通常機能： KIDS全体運営ビジョン策定、事業計画立案、企画計画承認、各種
活動実施推進、資金調達・管理、対外活動、運営諸実務、および
運営上の課題対応
- 活動実績：
 - 会員制度の見直し
 - メルマガ「KIDSふぉーらむ」の発行
 - 理事合宿：KIDSの課題認識共有、および解決に向けた取組事項検討
 - 会員組織のあり方、認定NPOの意義、KIDSの魅力度向上、年間活動スケジュール詳細化等
- 未実施事項：
 - KIDSレゾナント・シンポジウム、およびKIDSレゾナント・アドバイザリー設定
 - (未実施理由)「身近さ」具現化のための体制、制度見直しへ注力し、対外機能を劣後

KIDS 2006年度決算報告



【損益計算書】(2005年10月～2006年9月)

2006年度実績

収入の部	(千円)
協賛金・寄付金	10,314
参加費	5,433
会費	76
雑収入	1
収入計	15,824
<hr/>	
支出の部	
プロジェクト	10,281 *
運営費等	3,143
その他支出	1
支出計	13,425
<hr/>	
収支計	2,399

次期資産へ繰越 2,399

プロジェクト別支出内訳 *

KIDSプロジェクト	5,143
施設定期訪問	166
フェローシップ	0
インターナショナル	2,351
サマースクール	1,403
体験旅行	1,218
シンポジウム他	0